



## 教員の学び合いを促進するためのヒント・事例集 vol.4



～共に学び合う職場を目指して～

学校内・学校間の学び合いのために

## はじめに

県立総合教育センターでは、平成26、27年度の調査研究において、研究協力校8校に「学び合い」に関する聞き取り調査を実施し、事例を収集しました。分析すると、次のような「学び合い」の促進要因・阻害要因が明らかになりました。

### 学び合いを起こすために必要なのは…

- ❖ 経験や年齢にこだわらないコミュニケーション
- ❖ 気軽に同僚に話しかけやすい雰囲気
- ❖ 専門性を高めようとする意欲
- ❖ 楽しみの要素を取り入れた会議や研修
- ❖ シラバスや共通テストの作成
- ❖ ネットワーク上の共有フォルダ

### 学び合いが起こりにくい原因は…

- ❖ 物理的距離
- ❖ 長時間の会議
- ❖ 役割分担の固定化

平成26・27年度 県立総合教育センター調査研究

「学校内・学校間における教員の学びのネットワークの構築」より

〔阻害要因の解説〕

**物理的距離** 高校では職員室のほかに教科の準備室や研究室に滞在する教員が多い。このため他の教員と会話をする機会が得られず学び合いが起こりにくくなる。

**役割分担の固定化** 同一の分掌や委員会に長く所属していると、特定のメンバーであうんの呼吸で仕事が進むため、多くの職員を巻き込んだ学び合いが起こりにくくなる。

## 研修会という仕掛け

「質の高い学校教育の推進に係る事業」研修会は、開催校以外の学校からも教職員が参加できる開かれた研修会です。平成29年度は14校の推進校で、学校間の学び合いに向けて工夫した研修会が開催されました。

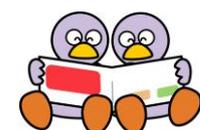
学校という枠を越え、各学校、各教員には優れた教育実践事例や経験を共有、蓄積する学び合いの可能性が広がっています。

### 研修会を学校内の学びの契機に

- ❖ 研修会がコミュニケーションの場となる
- ❖ 話合いや協議の時間を設け自由な対話を促進
- ❖ 研修会を重ねることで心理的な壁を除去
- ❖ 職員室での日常的会話の増加
- ❖ 相談しやすい雰囲気の醸成
- ❖ 学び合う土壌の形成へ

### 学校間の学び合いへ

- ❖ 他校の研修会に足を運び刺激を受ける
- ❖ 視野が広がりスキルも向上
- ❖ 人的交流により情報共有が促進
- ❖ 進んだ事例を自分や自校の活動に取り入れ
- ❖ 他校の参加者の受け入れで自校も活性化
- ❖ 学び合いの深化で全県的な共鳴へ



## 研修会運営の工夫

研修会の効果が高めるためには、実施方法や形態にもさまざまなアイデアや工夫を取り入れたいところです。そのような工夫のひとつとして、教員間の学び合いに有効なワールドカフェ方式を取り入れる研修会が多くみられるようになってきています。全員が関わり、対話が生まれる形式が学び合いを促進します。ここでは研修会の形式に関する事例を紹介します。



### ワールドカフェ方式

ゲストがリラックスしてオープンに生成的な話し合いを行えるように、様々な工夫を凝らし、主体性と創造性を高める話し合いのエッセンスを抽出してまとめたのがワールドカフェです。

今年度の研修会でも多くの学校で取り入れられていました。標準的な進行は右の通りです。

#### ★ワールドカフェで採用されるルールの例★

- ❖ 他の意見を否定しない
- ❖ 結論を求めない
- ❖ リラックスした雰囲気をつくる

#### 第1ラウンド

テーマについて探求

4名程度でテーマについて話合う

#### 第2ラウンド

アイデアを他花受粉

1名を残し移動して話し合い

#### 第3ラウンド

気づきや発見の統合

はじめのテーブルに戻り対話を継続

#### 第4ラウンド

集合知の発見・共有

司会の進行により全体で対話

※詳細な進行法が多くのウェブサイトで紹介されています。

例) WORLD-CAFE.NET <http://world-cafe.net/index.html>



### ワークショップ型研修会

多くの研修会で、参加者を小グループに分けて、グループワークや意見交換を行う場面を作っていました。少人数にすることで全ての参加者が主体的に関わるすることができます。また、お互いにより打ち解けやすくなります。講義・講演を中心とした研修会でも、途中に意見交換のコーナーを設けることで、参加者の主体的な関わりを引き出すことができます。

#### ★会場設営の工夫★

グループ協議をする際には、机の並べ方に気を配ることで、より学び合いが深まることが期待できます。小さいテーブルを囲んで向かい合う、生徒用の机をL字型に配置するなどの工夫が見られました。



### 他校との共催

特別支援学校では、以前から学校間の連携が図られ、研修会を共同で開催する取組が行われています。共催することで著名な講師を招く際の謝金や、会場準備に関してスケールメリットが得られます。共同の行事として恒例化することで、各教員がスケジュールを計画的に調整することができます。また、同じ学校から大勢と一緒に参加することで、気持ちの面でも研修に参加しやすくなる良さがあります。

#### ★運営の工夫★

他校からの参加がある場合に、来校者が主催校の職員と交流しやすいように工夫している例が見られました。効果的な例を紹介しますのでぜひ取り入れてみてください。

- ❖ 各グループに1人ずつ来校者を入れて組分けする
- ❖ 開会時に来校者を紹介する
- ❖ 他校の先生が混じり合うよう座席表を作成する
- ❖ 学校間での学び合いがねらいであることを周知する
- ❖ 読みやすい名札を用意し自己紹介の時間を設ける
- ❖ 来校者に協議の司会など役割を割り振る



### 学校行事との連動

ある学校では教員向けの学校説明会終了後に開催することで、多くの来校者の参加を得ていました。また別の学校では当事業の研修会を、授業公開と連動させ、初任者の授業を研修参加者で見学、10年経験者研修の先生が研修会の進行を務める中で、初任者の先生が報告をするという運営をしていました。

授業公開期間のように、校内に相互に学び合う機運が高まっている時をとらえて研修会を設定し、学校内で特定の経験年次を迎えた先生がいる場合に、経験者研修と一体的に計画することで、無理なく学びの機会を設けることができます。校内の若手・ベテランの交流に、専門性の高い講師の指導・助言が組み合わせられ、有機的な研修会となっていました。



### 日頃の教育活動と一体化した講師招聘

スクールカウンセラーなど普段から学校の教育活動に関わりのある方を講師として招聘している研修会も複数見られました。既に先生方と人間関係が構築され、生徒の様子も把握している講師を迎えると、個別の研修内容について深く掘り下げた議論ができることが示されていました。

また、生徒指導の実例を事前に講師と共有し、校内でも資料を基に職員間で内容を把握してから臨んだ研修会では、高いレベルでの協議が行われていました。

日頃の教育活動の延長線上に、課題共有やブレイクスルーのきっかけとして研修会を位置付けると、学校として一体感のある実効性の高い学びの機会を生み出すことができます。

## テーマ設定の工夫

研修会のテーマが多くの人にとって関心の高いものであったり、魅力的なものであったりすると、参加者の主体性はおのずと高まりますし、協議や意見交換も活発になり、研修会の成果も著しいものとなります。ここではテーマの設定に着目して、今年度実施された研修会から、ヒントとなる事例を取り上げようと思います。



### 多くの学校で共有できるテーマ

今年度は全16研修会のうち7つの研修会が、発達障害などの特別な支援を必要とする生徒への対応をテーマとしていました。また5つの研修会ではアクティブ・ラーニングなど新しい学びやコンピテンシーに関わるものでした。生徒の指導に直結する内容であり、かつ社会的にも注目されている課題をテーマとしたこれらの研修会では、参加した先生方が大変主体的・意欲的に意見交換や協議を行っている姿が見られました。

共通するテーマの下でも、学校ごとに内容は異なり、多彩な講師を迎えて研修会が開かれています。研修会の情報を共有して、多くの学校で相互に参加する取組が加速することが望めます。



### 長期的に一貫したテーマ

学校によっては、複数年度にまたがった長期的なテーマを設定し、一連の流れの中で「質の高い学校教育の推進に係る事業」の研修会を位置付けている例もありました。学校の課題についての共通理解を形成して、関連する話題への理解を深めながら、一つのテーマを丁寧に追及することは大変効果的です。職員の理解が段階的に深まることで、より高度な研修会を企画することが可能になってきます。

## 意識を高めるための特出しテーマ

学校内で共有したい喫緊の課題について、強く意識を持ってもらうために研修会を企画した学校もありました。特に採用から経験の浅い先生の多い学校では、日常業務の枠を越えて先生方が視野を広げられるように、意識を高めている取組が見られました。学校としての組織的な取組を形作り、新たなステージへ上っていくために、研修会を活用している事例です。

## 研修成果の共有

### 研修会後の情報交換

特別支援学校3校合同で実施した研修会では、研修会を受けて各学校でそれぞれに教育活動を実践し、後日あらためて合同の授業観察や情報交換の機会を設けていました。各学校でのPDCAサイクルの中に研修会を位置付けるとともに、学校間の学び合いの輪の要としても研修会を活用する高度で質の高い取組です。

### 研修資料の反復利用

研修会で学んだ内容を定着させ、それぞれの先生の実践に結び付けたり、実践を継続したりすることは難しいことです。研修会を複数回重ねる中で、その学校の先生が作成した研修資料を繰り返し利用している事例がありました。学校の状況を的確に反映した自校作成のテキストを繰り返し用いることで、内容を確実に定着させるとともに、職員間の問題意識や情報の共有が高水準で実現していました。

### プランニングとコミュニケーション

研修会の運営を若手の先生方が中心に行っている事例がありました。研修会運営のプランニングから責任を持って取り組むことで、モチベーションを高めることができます。また、一緒に運営に携わった仲間同士でコミュニケーションが活発になり、学び合いなどを通し教育活動の質の向上につながります。研修会の効果を最大限に高めるために、準備段階も研修会の一部と考えるアイデアです。

## おわりに

- ❖ 今年度策定された「教員等の資質向上に関する指標」には埼玉県教員として持ち続けてほしい素養として「常に自己研鑽に努め、自律的・主体的に学ぶ」ことや「豊かな人間性やコミュニケーション力・幅広い教養・視野を持ち、家庭や地域など誰とでも協働する」ことがあげられています。
- ❖ 「研修会」と聞いてイメージするものは人それぞれだと思いますが、誰もが参加できるフィールドを用意して、参加したメンバーが自由にのびのびと自分の考えを発言でき、コミュニケーションを通じて次の仕事に結びつくヒントを得られ、そのような取組を通じて先生方がスキルなどを磨くことができれば素晴らしいと思います。
- ❖ 研修会という協働的・協調的な学びの機会を通じて、指導観や生徒観を共有することは、教育活動の質の向上に直結することはもちろん、働きやすい職場づくりにも貢献します。ここに紹介した事例を、教員間や学校間の学び合いを促進するヒントとして役立てていただければ幸いです。